

第 1 1 回総務文教常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成26年9月26日（金）午後3時13分
- 2 閉会日時 平成26年9月26日（金）午後3時44分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
 - 1 番 佐々木雄司君
 - 2 番 光成 良充君
 - 3 番 澤 健君
 - 10 番 松田 勲君
 - 11 番 北川 勝義君
 - 16 番 下山 哲司君
 - 18 番 小田百合子君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者

市 長	友實 武則君	副 市 長	内田 慶史君
教 育 長	杉山 高志君	総合政策部長	池本 耕治君
総 務 部 長	岡本 衛典君	財 務 部 長	近藤 常彦君
教 育 次 長	奥田 智明君	秘書企画課長	徳光 哲也君
- 7 事務局職員出席者

議会事務局長	富山 義昭君	主 査	大饗 剛君
--------	--------	-----	-------
- 8 協議事項
 - 1) 事業の進捗状況について
 - 2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午後 3 時 13 分 開会

○委員長（北川勝義君） 第11回の総務文教常任委員会を開催したいと思います。

開会に先立ち、友實市長のほうから御挨拶いただきたいと思います。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 委員の皆さん、本会議終了後、お疲れのところこうして第11回の総務文教常任委員会を開催いただきましてありがとうございます。

本日、急に開催をお願いしたわけですが、これは昨日、平成27年度の片鉄バス運行事業について活性化対策協議会がございました。この報告を中心にさせていただきたいということをお願いをした次第でございます。よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、早速ですが、協議事項に移らせていただきたいと思います。

協議事項 1 の事業の進捗状況について、今の片鉄の活性化協議会のことですが、市長のほうから、執行部のほうから御説明願いたいと思います。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。市長、座ってやってくれりゃあよろしい。

○市長（友實武則君） 済いません。

それでは、昨日午後 4 時から和気町の町役場本庁舎 3 階の第 2 会議室で片上鉄道沿線地域活性化対策協議会がございました。議題といたしましては 1 件のみで、平成27年度片鉄バスの運行事業についてという議題でございました。具体的に申し上げますと、この平成27年度、次年度ですけれども、この片鉄バスの運行事業について、備前市長のほうから備前市がこの事業について脱会するという意向を表明されておまして、これについての議論を中心に行わせていただきました。昨日の議論を振り返って、それぞれの委員の方の発言等をここで簡単ではございますけれども、報告させていただきます。

まず、備前市長の言われた御意見でございますが、これについて言いますと、備前市においては吉村備前市長が就任してすぐ公共交通計画を昨年度策定いたしました。主に山陽本線と赤穂線の各駅の利便性を向上するように、バスあるいはデマンドタクシーの充実を行うよう計画し、備前市議会よりその方針について賛同ももらったということでございます。そして、この備前市の公共交通計画では、この本片上鉄道の片鉄バス、これについては利用者が極めて少ない、またこの先この増加が期待できないということ、そして備前市も少子・高齢化を迎えて早急に対応することが必要であり、行革の見地からもこの片鉄バスの事業について、美咲町と同様に脱会を予定するというところでございました。本事業の会計が通常の会計年度と違っておりまして、10月から9月が1カ年の会計年度となっているところでございますけれども、平成

27年3月31日をもって脱会したいという意向の表明がありました。

これに対しまして、順不同ではございますが、各委員さんの御意見をここに御報告させていただきます。

まず、和気町の議長の御意見でございますが、備前市の御意向は了解できるとした上で、今後利用者増加は期待できない、そういったことから、この判断をすることが重要であって、そういう意味からも……。

○委員長（北川勝義君） 和気町。

○市長（友實武則君） 和気町議長。

○委員長（北川勝義君） 和気町じゃな。

○市長（友實武則君） はい。今回の申し出は仕方がないというふうに考えるという御意見でございました。

続きまして、和気町長の御意見でございます。重要なのは、今後備前市の意向を踏まえてどう対処するかが重要。和気町と赤磐市でしっかり協議を行うべきだと。この申し出に対しては容認の姿勢でございました。

続きまして、赤磐市の御意見でございます。私及び小田議長の意見をあわせて報告させていただきます。

まず、備前市の公共交通計画及び市の政策について、これを批判するつもりもないし、意見を言うつもりも毛頭ありません。そうした上で、今回の申し出及びその後について赤磐市として受け入れることができない部分があるということ意見を言わせていただきます。通常でありますと、こういった意向が出れば、事務局が集まって課題、たくさん想定される課題について十分な協議を行って、円満な解決策を立案することを目指すのが普通であるということをおっしゃっていただいております。今回の申し出におきましては、昨年の秋ごろ、備前市長からそういう意味の発言はあったものの、その後特に事務的な協議を行われることのないまま、本年の7月、協議会で再度備前市長から発言があって、この協議会が紛糾したという状況でございます。その後、事務局の協議がその後にとやっと始まったというような状況で、その協議内容につきましても脱会ありきの協議となってしまっていること、これらを勘案しますと非常に残念だと、とても納得できる内容ではないという発言をさせていただきます。

それから、これまでの例えばごみの広域処理の問題もありまして、自治体間で連携あるいは協働して事業を行う場合には、やはり最も重要なのは信頼関係と連携を密に行う、そういったことを大事に考えますと、このようなやり方は私のみならず、赤磐市民の皆さんの理解が得られるものではないということをおっしゃっていただいております。

こういった内容を、意味は同じような意味合いの論議を1時間少々行った後、昨日の結論といたしましては、協議の結果、備前市としてはこの激変に留意をするということで、次年度、すなわち平成26年10月から平成27年9月までの負担を考えて、新年度予算にこれを計上させて

いただくということを吉村市長のほうから提案がございました。

○委員長（北川勝義君） もう一遍言って、26年の。27年の……。

○市長（友實武則君） バスの会計が10月、9月ですから、26の10月から27の9月です。

○委員長（北川勝義君） じゃけえ、9月じゃない、7月言うたよ。

○市長（友實武則君） 7月言いました、済いません。

○委員長（北川勝義君） 27年の……。

○市長（友實武則君） 9月。

○委員長（北川勝義君） 9月までな。

○市長（友實武則君） 1カ年の会計年度を負担するということを、予算計上するということでございます。それから、今後、和気と赤磐で今後の方策、これはバスの存続を大前提とした協議をこれから各種の問題をどう対処していくかということ協議に直ちに取りかかろうということで協議を終えております。

私のほうからは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 議長。

○議長（小田百合子君） ほぼ市長が言ってくださったんですけども、これは去年の話は、私は全く聞いておりません。恐らく管理者会議か何かの席上でちょっと言われたぐらいだと思います。初めて聞いたのが7月1日でした、ことしの。担当者のほうから、備前の市長が片鉄バスの協議会を脱退するという話が出るかもしれないということで、先ほど市長も言われたように紛糾しまして、こっちはとんでもない、急に言われてもっていうことで対応してたんですけども、言われたような成り行きでこのう、これはそこまで言われるんだったら、今後仲よくやっていくなんていうことは到底無理だと思いました。余りにも一方的に我が市のことだけと言われるわけですから、ですから、ならば前向いて今後をどうするかということ……。

○委員長（北川勝義君） 市長と大体同じ考えじゃな。

○議長（小田百合子君） はい、全く同じ考え方です。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

委員の皆さん、お聞きのとおりです。前も私は実は勝手なことを言いましたら、組合議会がありまして、その中でたまたま僕が出とるだけで、議長出てないのがあったり、北衛のいろいろありまして、その中で全協みたいなのを、協議会をさせていただきまして、友實市長も出席し、よそは全部市長が出られて、その中でし尿の関係、それから片鉄バスの関係、いろいろお話を、ごみの関係、和気町の、いろいろお話しして、その中には全然赤磐市は何も迷惑かけとりません、赤磐はですよ。和気町のほうは勝手にごみのこともあったりんですけど、それから備前市はし尿のこと、今の片鉄のことを言われてたんで、誰が悪いとかというてもおえんのんで、どっかの市が悪い言うてもおえんし、吉村市長、あんたエゴじゃという話から、そういうことじゃのうて、ええ話をせにゃおえんというて、もう少しええ話になるかと思ひよったん

いう話も考えていただきてえと思うとんで、それで今僕は腰を、下山さんが言われたように腰割ったような、めぎかたしよるんじゃねえんじゃけど、もう1年分出しちゃうというけえ、せんというこっちゃけん、これをせえというて言うても、これ不可能じゃ。

○委員（下山哲司君） 聞かにやいけんことがある。

○委員長（北川勝義君） ちょう待って、もう終わるけん。と思うとりますんで、皆さんもこれには難しいというのは、組合議会の破綻みたいなんじゃけど、どねえしようもねえということの気持ちがあるんで、組合議会じゃねえですけどな。

質問があった、下山議員。悪いんですけど、次、議運が残つとんで、よろしく願ひします。

○委員（下山哲司君） これ県からもろうとるあれは……。

○委員長（北川勝義君） ねえんじゃ。もうねえんじゃ。

○委員（下山哲司君） もうのうなったん。

○委員長（北川勝義君） 県はないんじゃ。

○委員（下山哲司君） 今ゼロ。

○委員長（北川勝義君） うん、県は出よらん。

○委員（下山哲司君） いつからゼロ。

○委員長（北川勝義君） 3年ほど前、県は出よらん、いつからかな。

徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） 県の補助につきましては現在ありません。

○委員（下山哲司君） いつからのうなったん。

○委員長（北川勝義君） もう2年、3年ぐらいになろう。

○秘書企画課長（徳光哲也君） 昨年度が利用者数が基準を下回ってますので、去年は出ております。

○委員長（北川勝義君） それをもろうただけじゃな。

○秘書企画課長（徳光哲也君） はい。約200万円ぐらいだったと思います。それが出ておりません。

○委員（下山哲司君） 出んかったん。

○秘書企画課長（徳光哲也君） はい。

○委員（下山哲司君） 報告あったか。

○委員長（北川勝義君） それで、下山さんの意見と同意見が議長にちょろっと僕言うたんじゃけど、お願いしたのは、県議にもお願いして、県が廃校にした、いろいろなこっちゃけえ、片鉄バスは違うけど、学校のことがあるんで、県にも200万円も出せというて言うたら無理かもしれん、100万円でもな、何ぼでも、一応200万円言うてみりやええんじゃけど、何ぼか出してもらうということを考えてもらいてえと思うんじゃ。そうしたら、それから先のことを言う

て先走るんじゃないねんじゃけど、やっぱり対策で、何ぼか通学の定期代下げちゃりゃ、本当2人も行きよる者やこええと思うんで。それから、報告は僕も総務委員会では聞いてねえようなかも、出ん言うたかな。

○委員（下山哲司君） 聞いてねえな。

○委員長（北川勝義君） あれ協議会で言うたんかな。協議会の報告じゃったんじゃないな。何か議長が行って、協議会のほうでちょっと聞いたような気がした、総務委員会で協議会の報告をしてくれたんじゃないな。議長が確かに報告してくれたと思う。

○委員（下山哲司君） 総務委員会では言うてなからう。

○委員長（北川勝義君） 総務委員会か全協かなんかで議長が報告、どっかで言うてくれたと思う、議長が。出んようになりましたという話。それは何かで聞いたんじゃない。何で聞いたじゃろうか。

○議長（小田百合子君） ちょっといいですか、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、議長。

○議長（小田百合子君） あのですね、これ先ほど委員長が1年分出してくれるって言うからっていうふうなことを言われましたけど、実際のところは足りない半年分、来年度のね、その分を予算措置しなきゃいけないんですよ、赤磐市が。だから、その分で当初予算にもかかわってきますし、それから中身をどうするかというのはおいおい相談していけばいいわけですけど、だけどもう本当にどうしてもこうなったからには皆さんにもある程度御理解をいただいて、予算を出してこれるように……。

○委員長（北川勝義君） 議長が言われる、うちは今何ぼ出しよんかな。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 27年9月まで向こうが割り当てを払ってくれるということになりゃあ、今までどおりは、27年9月まではせにゃあいけんのんじゃ。出すということなら。それまでに準備をせえと。

○委員長（北川勝義君） そうそう。

○委員（下山哲司君） 時間があるんじゃないから、きょうのところは報告を受けて……。

○委員長（北川勝義君） ただな、議長が言いよんのは、そうじゃない、今でも赤字になつとるから、補填分があるから出てこんけえ、それ補正もせにゃおえんからということ言われよるわけ。わからんから。

徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） 26年度につきましては、もう予算化をいたしておりますので、去年の10月からことしの9月分は予算ができております。支払いは今年度中で構いませんので、来年の3月いっぱいにお支払いをすればよろしいということになります。それから、新年度予算につきましては、26年10月分から27年9月分を新年度、27年度予算に要求をさせてい

ただくようになります。

○委員長（北川勝義君）　じゃあから、今26年度、何ぼでいきよる。

○秘書企画課長（徳光哲也君）　現在の26年度が535万3,000円、27年度は542万9,000円になる見込みです。これは消費税が途中で変わってますので、金額が変わる……。

○委員長（北川勝義君）　いや、ちやうちやうちやうちや、もう備前市がせなんだら何ぼになる、和気と。600万円ほどになるじゃろう。

○秘書企画課長（徳光哲也君）　今のところ、備前市は一応来年の9月までは……。

○委員長（北川勝義君）　いや、違う、じゃから、備前市がのうなった場合、新しく何ぼになるんなら。備前市の負担分が何ぼになる言いよんじゃがな。

○秘書企画課長（徳光哲也君）　2市になった場合は、現在のところは約1,575万円ぐらいになる予定です。それを1市1町で……。

○委員長（北川勝義君）　だけえ、700万円か800万円になるんじゃろうがな言うんじゃ。

○秘書企画課長（徳光哲也君）　案分すればそうなります。

○委員長（北川勝義君）　そうなるんじゃろう、今度は。じゃけ、200万円から、赤字が出んでも200万円から出てくるというこっちゃけえな。じゃけど……。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君）　どんどんどんどん話を進めていっていただいているんですが、どうしてもちょっと疑問に思うところがあるっていうか、ちょっとお考えをお聞かせいただきたいんですが、市長、これは先ほどの問題があるという先方に対してお考えを伝えたというところまでは聞いたんですが、赤磐市として市長、どうしたいのか。そのまたその何をしたいということについて、どうしたいのかということについての明確な理由、それを残さなければいけないという理由ですね、将来的には廃止もやむを得ないんだというのであれば、その廃止の理由、そこを聞かなければ、ここに委員会の委員としてここにこの座ってる以上は、よしあしの判断をこれからしていかなきゃいけないのに、何もわからない、その執行部が決めていくものを、じゃあ追認してください、ついてきてくださいと言われてもわからずにはついていけないですよ、やっぱり。

○委員長（北川勝義君）　ちょっと佐々木委員、今僕も考え方、次の言うたら、下山さん、そりゃ先のことじゃろうがな言われたんで、今言う、とりあえずきょうのことは緊急に集まっていたいたなあ存続するとか、存続とかいろいろな考え方があるんじゃけど、今のことに答えれりゃ答えていただけりゃええ、今言いよんのは、考え方としてとりあえず1年は、もうちょっとあるんじゃけど、それまでにやっていかにゃおえんということで急遽こういう結論出してきたんで、備前市やこはマナーが悪い言うたら悪いけど、はっきり備前市、瀬戸内市、ごみでも入れてくれえというて、入れてくれと、はあやめると簡単に、組合議会をしょってやめるんじゃから、名刺持って、じゃからそういうことがあるんで行儀悪い。向こうはそれが通ってき

よんじゃから、ほんなら赤磐市が一緒になって、ペナルティーで裁判かけちゃうというたって、かけるもできもせんし、じゃけやっぱりそこんところがあるんで、きょうは話を聞かせてもろうたということで終わりにさせてもらいてえとと思いますんで。とりあえず、今の佐々木委員の言うた……。

友實市長。

○市長（友實武則君） 私のこの赤磐市政を預かる責任者として、この片鉄バスについてどう考えるかということでございますが、これは先ほどの説明にもありましたように、この備前市が脱会するということが本当昨日改めて確認できたという状況から、その先はまだ進んでいるところじゃございません。しかしながら、この特に吉井の周匝の地域の高校生等が通学する足としては重要性を認識しております。この利用者が少ないというのを今度はどうやったら利用者がふえるかというような議論も必要かというふうに考えておるところでございます。そういった思いを持ってこれからどういうふうなことをしていくのがいいのか、関係者としてしっかりと協議を進めていきたいと、こういうふうに思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

あのね、今言うたのは、10月から新しゅうなるからということで議長も協議会があるからというこって、これが本来のことで12月からいくとかというんじゃったら、またゆっくりまた話すりゃええんじゃけど、こういうこって報告だけしてなかったら、市長、議長の活性化協議会の行ったときの筋が通らんと、議長らもこれでよろしいでしょうというて皆さんが言うんじゃったらええんじゃけど、やっぱり反発もあるんで、やっぱりこれから次のときの時間までに運行していくとか、どういうことを考えていたり、契約とかいろいろなこともあると思うんで考えてもらやあええと思うんじゃ。

それで、ぜひお願いが、これはもうはっきり言うて、和気高校の存続にかかわってくるんですよ。軽う言うたら、バスがのうなったら、和気高行かんようなるんです、一切。林野高校とか、もう皆こっち、津山とかあっちに流れるんですよ、これなかったら。今もやりよんのが、時間帯が悪いか、運転手が悪いんか、決め方が悪かったん。もう学校のクラブしたら終わらん、クラブで後から帰らにやおえんようになる、別建てのことをするから、必要な時間に走らせて、必要じゃねえ時間は休みやあええんですよ。今空気だけ運びよるときもある。そりゃ休みやあええんです。そうしてしたらできるようになると思うんで、ぜひ市長、議長、我々もついてけえ言うたら行きますけど、ぜひお願い、下山さんも僕も吉井じゃけえ行かにゃいけん、お願いとして和気町と一緒にあって、備前市はもうねえ話じゃからなって、これを行かなんだら、和気高本当に貧弱になることもわかり切とんです。じゃから、ぜひみんな働きかけていくということをちょっと考えてくださいよ、アポイントとるというんか、ええ悪いは別で。そうせなんだら、もうこれをどう言うてええんかな、おえんけえ、おえんけえというて言

いよってもどねえもならんし、唯一の今交通機関じゃから、和気行きよるのが、鶯飼谷温泉バスがのうなっただけ、唯一のバスなんですよ、乗れるんが。通学バスじゃのうて。

○委員（佐々木雄司君） 疑問符だらけなんですよ、話に、本当に……。

○委員長（北川勝義君） ちょちょっと待って。それで、今のはそういうことが、会期が10月から9月までという年の決め方でやっとなで、10月はすぐなって、協議会がすぐあるんで、委員会が、総務文教委員会のメンバーがこういうことになつるということを知らんということになったらおかしいことになるんで、きょう議長が早急にどうしてもやっとかにゃいけん、相談があることでやってくださったんじゃ。配慮して、議長、市長配慮してやってくださったんで、きょうはこのお話を聞かせてもろうたというこって、議長に任すとか市長に任せて何か荷をかけるという話じゃのうて、我々もしますんで、ぜひこれ、はっきり言うてこのバスがのうなるというたら、僕らも吉井町おれんようなるかもしれんし、ほんまの変な話じゃのうて。ぜひ、その話をさせてもらわにゃおえんと思うんで、きょうは今佐々木委員が納得いかんというて、ようわからんというて前が見えてねえんもあるんで、僕ら特にずっとやりよつたらようわかりよるんがあるんじゃけど、ちょっと議長、市長、考え方言うたのと、徳光課長やりよつた料金がどうなって、今どうなつるといふんが、ことし、来年どうなる、再来年は2市になった場合どうなるというのもちょっと一覧表とかバス停の時間とかというのを、今度の総務文教委員会のときあるでしょう。そのときまで、10月の委員会のときに上げてもろうて、これも一つの議題にさせていただくということで。それといろいろ矛盾点もあつて、映画のことも矛盾点があるんで、いろいろあつたり、それから図書館の件があります。図書館の件等もあるんで、それは教育長と僕と、その話はせにゃおえんのも一個あるんじゃけど、それも10月27日にしていかんとか、議題に上げていただくということで、閉会中もやっていただくということで、きょうのそこはこういうことを聞かせてもろうたということにさせていただきてえと思うんで。

ちょちょっと待って、あれは言う言う。

○委員（澤 健君） その他で、今のこれで、ちょっと一点だけ。

○委員長（北川勝義君） ということがありますんで、よろしくお願いします。

○委員（澤 健君） ごめんなさい、忙しいところあれなんですけど、備前市、この間監査委員会も何かさつと発表されたりしてて、どうもちょっとおかしいなっていうのは感じるんですけど、それが備前市のどういう体質なのか、もうだから備前市はそのものがもうだめなのかどうかという……。

○委員長（北川勝義君） あれはまだ西岡さんのほうがえかったわな、市長……。

○委員（澤 健君） そういう問題がどういう問題なのか、だからそれをつき合い方を考えていっていただきたいなというのが要望の一点と、それとも一つは、和気町はなぜすぐにオーケーしたのかがよくわからないんだけど、それはどういうふうに市長思われてるんでしょうか

ね。何で和気町オーケーしたんだろう。

○委員長（北川勝義君） それは、ちょっとこの答えは次にしてもろうて、和気町は猛反対しとん、おえんというて。言うたんじゃけど、備前市に、聞かんのんじゃ、備前市がもう。前から言うところうが、聞いとらんと言うんじゃけ、そりやおえんというて、どっどどどやるからもう、和気の町長やこはノイローゼになるような状態になつとるんで、ここが聞いて、赤磐市の市長が言うたんじゃったら、市長どういことなというてまた話ができるけど、話を受け付けんのんじゃ。少ねえから。せえと、和気高の子へ……。

○委員（澤 健君） 了解しました。

○委員長（北川勝義君） 和気へ備前からようけえとられたら、それも備前高校のほうもイタチ返しがあるから、やっぱりいろいろ、そういうこと。それで、備前はもうはっきり言うて、赤穂のほうへ力を入れよんじゃ、あつちの。考え方がちょっと……。

○委員（佐々木雄司君） 委員長、いいですか。

10月の文教委員会の中で、いろいろ議題として御報告いただけるのであれば、どのぐらい利用者がいて、今現在どのぐらいお金をそれに対して補助金をかけて、お金の支出があつて、一人頭どのぐらいの経費がかかっているのか。これが1市1町という形になった場合に、赤磐市の財政負担というものがどのぐらいになるのか、将来の子供の通学というもののそういったものに関して大体一人頭どのぐらいの経費がかかってくるのか、そういった数字を御用意、それまでにはいただきたいと。要望入れときます。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員が言われたように、最初の片上沿線ができた経過から、それから備前高校がこうなつて和気高と統廃合したときの流れから、それと負担金の関係、県からのというのをそう難しゅう言うんじやのうて、それをちょっと書類に出してやってください。それから、先ほど言いました図書館の関係とか、それからいろいろあつた諸問題が残りで上げとることについて、納得してないんもあつたりしますんで、話をさせていただくということ念頭に置いてもろうてやっていただきたいと、次に思いますんで、きょうは勝手なこと言いますが、僕は大体きれえなんじゃけど、次があるからというのは、入れてもろうたんじゃけもう文句言えれませんで、議運の委員長にもお断りして入れてもろうとるんで、きょうはこれでこの総務文教常任委員会を閉会したいと思います。

ごめん、失礼。この事業の進捗状況についてはこれで終わりたいと思います。

その他について、池本部長のほうからありますんで。

池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 宿題をいただいております全国ロードショーの件ですけれど、まだ配給計画が決まっておられませんから、慎重な言い方になりますが、映画ができますと地元での先行上映、それからその後、各地で上映を計画してやっていきます。順番に行くようでございますので、これも言い方すりゃ、全国ロードショーって言いますけれども、そういう

形で進んでいくようでございます。決まりましたらまた説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 来月の委員会のときにもうちょっと詳しくどうなっとなつというので、ちょっと言うてやって。ありますんで、ちょっと報告願います。

これで、第11回総務文教委員会を終わりたいと思います。

閉会に当たりまして、内田副市長のほうから御挨拶。ええ。

○副市長（内田慶史君） 委員長、副市長内田です。

○委員長（北川勝義君） はい、副市長。

○副市長（内田慶史君） 本日は、本会議終了後お疲れのところ、第11回の総務文教委員会を開催していただきましてありがとうございます。片鉄バスの関係について、市長のほうからも御報告申し上げたところでございます。この件につきましては、今後当委員会の委員の皆様方の御意見を聞きながら慎重に対応させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

本日は大変お世話になり、ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございました。

これで第11回総務文教常任委員会を終わりたいと思います。御苦労さまでした。

午後3時44分 閉会